

進学部門アンケート報告

令和5年度神奈川県立高等学校進路指導協議会
調査研究部会・進学部門

横浜国際高等学校 遠藤 誠 / 多摩高等学校 後藤博行
相模原高等学校 諸岡佑之 / 新羽高等学校 能美 悟

本調査について

四年制大学について

短期大学について

指定校推薦について

総合型選抜入試(AO入試)について

大学入学共通テストについて

専門学校について

保護者対象進路説明会について

日頃感じている問題点

本調査で取り上げて欲しいテーマ

本調査について

4 本調査について

調査の目的

本アンケート調査は今年度で34回目を数える。

これまで現場の生の声を進路指導に生かしたいと行ってきた。

今年度は神奈川県内の県立高校134校から回答を得て、分析を行った。

2020年度から、教育現場では、大学入試改革や新型コロナウイルス感染拡大、また同時期に文部科学省のGIGAスクール構想の下、教育現場でのICT化が急激に進み、教育改革とも言える変革がもたらされました。

この状況下の中で生徒の進路環境も大きな変動が見られ、それに対応して我々、教職員の進路指導の方法も変化を余儀なくされました。

この激動の状況の中で、多くの学校がアンケートにご協力していただき、誠にありがとうございました。

本調査研究の報告が進路指導に関わる教職員の皆様の一助となることを期待します。

5 本調査について

調査の方法

本協議会の地区幹事からなる調査研究部会の調査員が全県の高等・中等教育学校対象に、WEBアンケートで調査を行った。

原則として昨年までの調査項目を踏襲し、経年比較することにより、進路データの変化を見つけ、その分析を行った。

6 本調査について

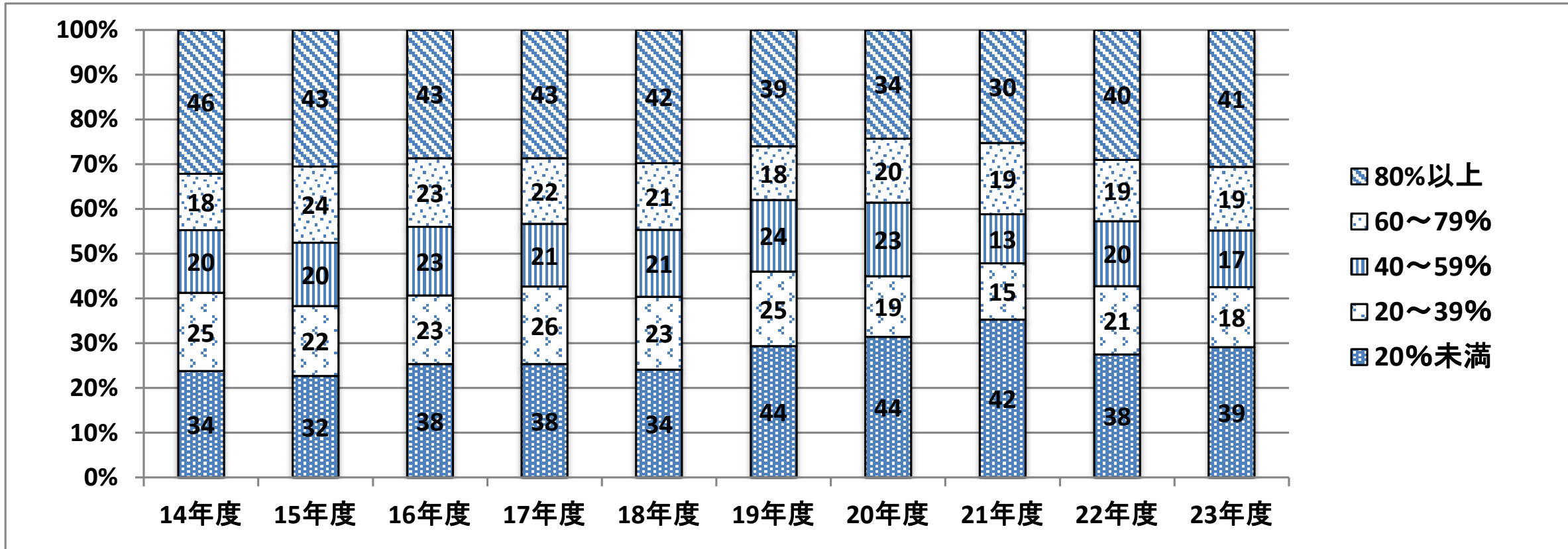
アンケート回答数

(単位)校

14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
143	141	150	150	141	150	140	119	138	134

四年制大学について

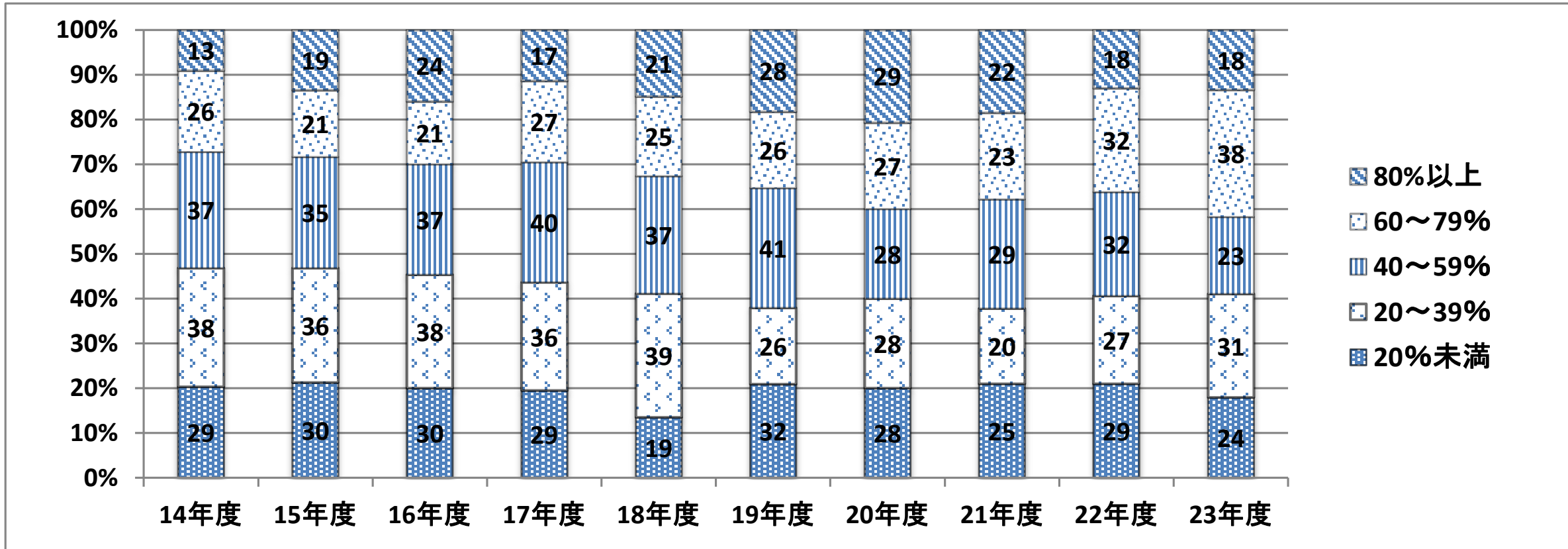
四年制大学進学希望者の割合



2017年度から、80%以上の生徒が希望する高校が減ってきていたが、2022年度から回復傾向にあり、大学入試改革前と同程度まで回復している。それに伴って、20%未満の生徒が希望する高校が減ってきている。四年制大学進学希望者の割合が増加してきており、私立大学入学定員厳格化の緩和が影響していると考えられる。

四年制大学について

四年制大学進学希望者のうち、学校推薦型(指定校・公募)入試制度利用者の割合

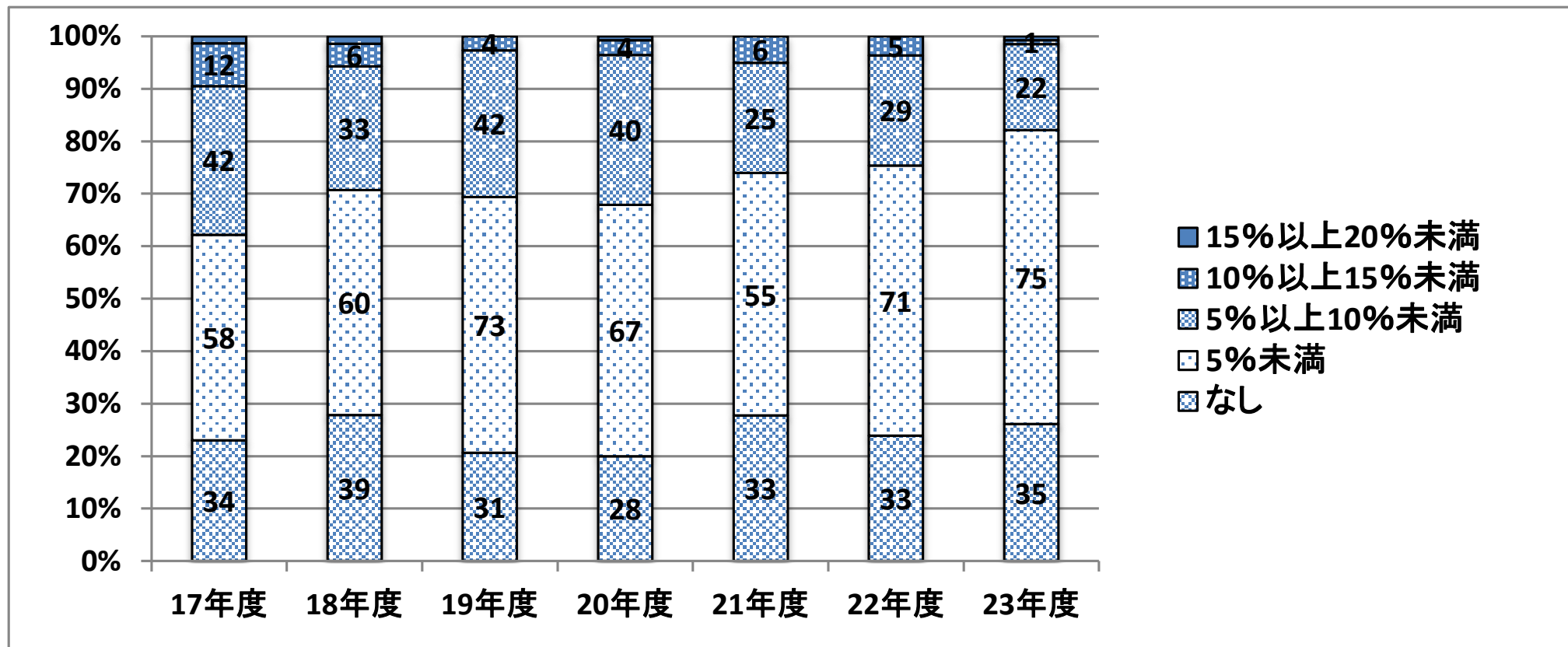


2018年度から、学校推薦型選抜を利用する生徒が80%以上の高校が増えてきていたが、昨年度からは2018年度と同程度までに減っており、60~79%、20~39%の高校が増えている。

短期大学について

11 短期大学について

短期大学進学希望者の割合

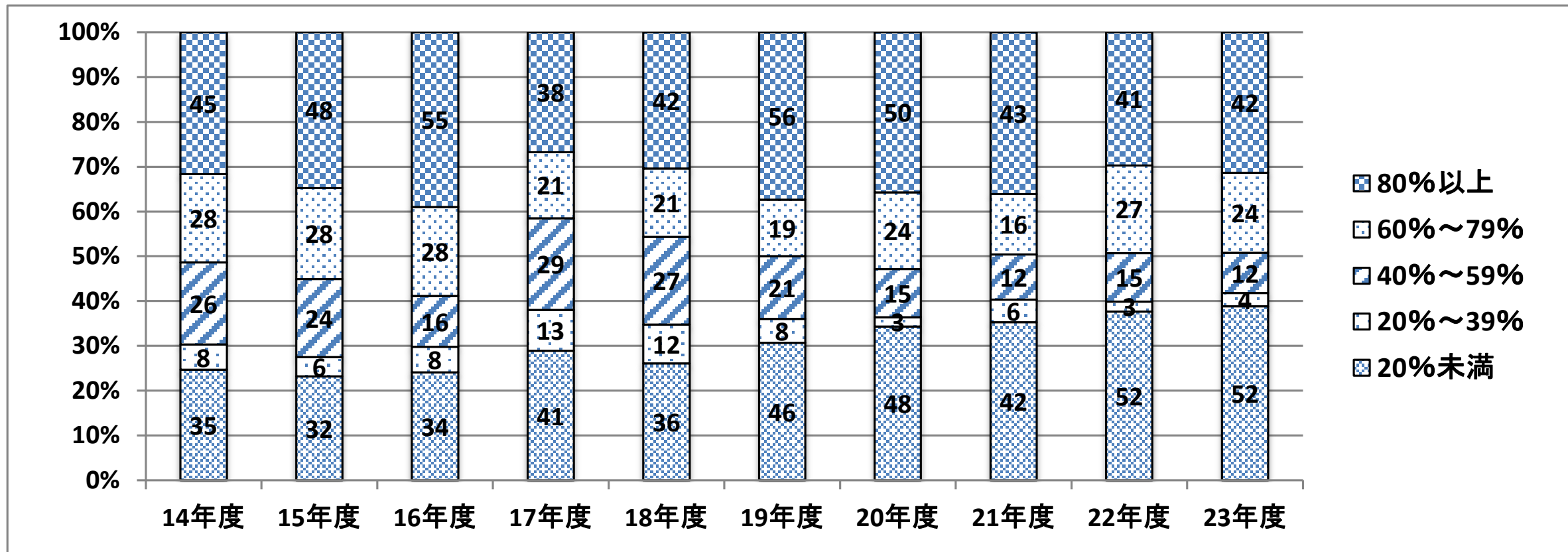


短大を希望する生徒が0~5%未満の高校が増えてきており、それに伴って10%以上の生徒が希望する高校が減少してきている。

各高校において、短期大学を希望する生徒の割合が更に減ってきている。

12 短期大学について

短期大学進学希望者のうち、学校推薦型(指定校・公募)入試制度利用者の割合

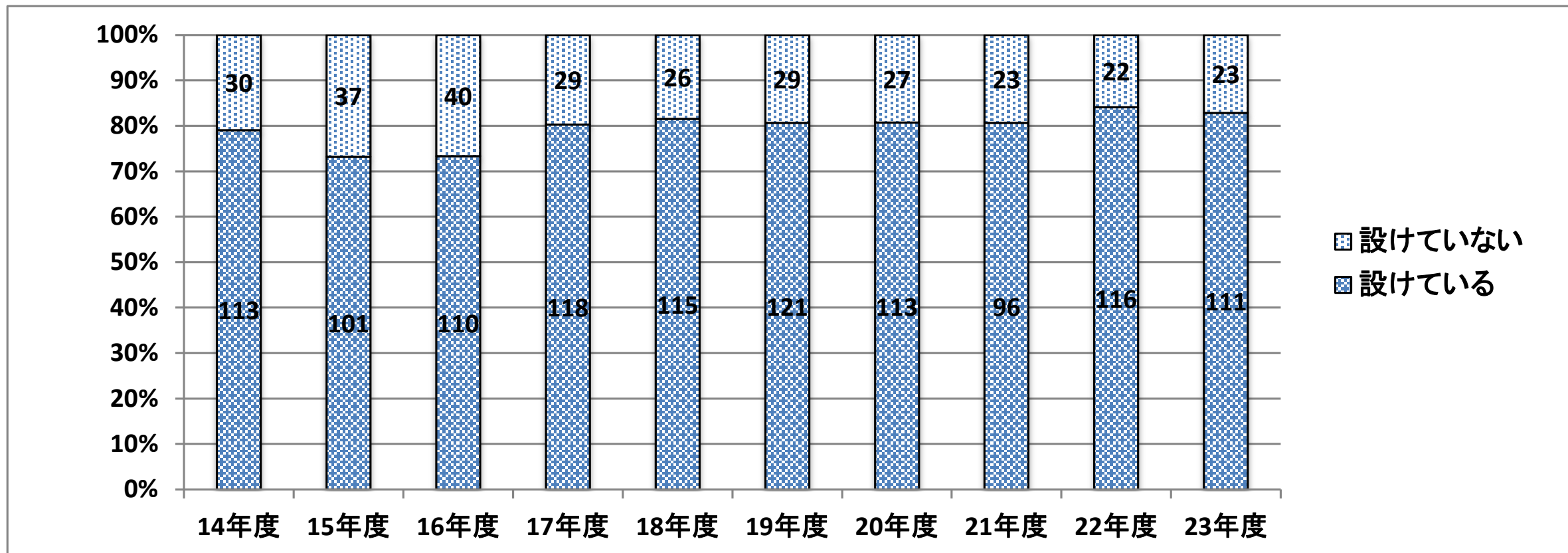


私立大学入学定員厳格化が開始されてから、短期大学へ学校推薦型選抜を利用する生徒が増加する高校と減少する高校が増えてきており、二極化していたが、2019年度から、20%未満の高校が増加して、かつ、80%以上の高校が減っている。短期大学入試では、学校推薦型選抜を利用しない生徒が増えている。

指定校推薦について

14 指定校推薦について

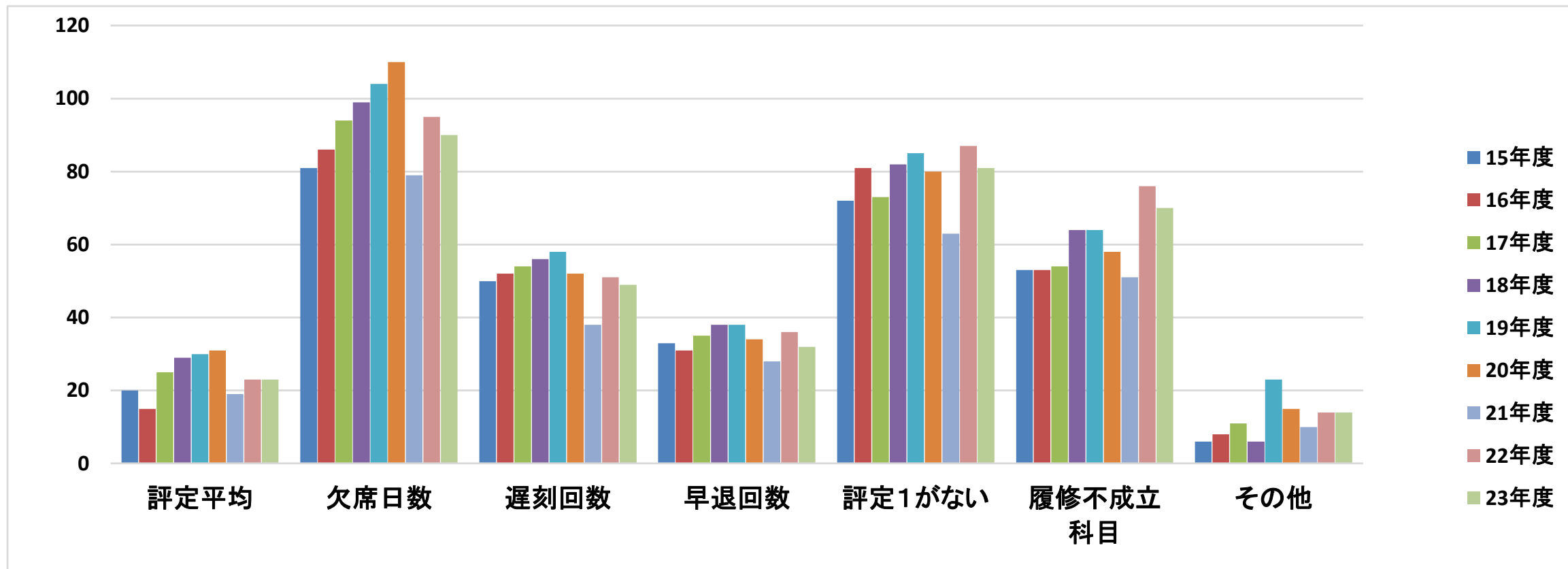
指定校推薦について、大学側からの基準以外に校内基準を設けていますか。



2017年度から、校内基準を設ける高校が増えてきており、現在は、83%以上の高校が校内基準を設けている。

15 指定校推薦について

大学側からの基準以外に設けている校内基準



2017年度から、校内基準を設ける高校が増えてきているが、その項目としては、欠席日数、遅刻回数、評定1がない、履修不成立が増えている。ところが2020年度から、各項目で減少傾向があり、これはコロナ禍で「臨時休業」や「校長が出席しなくてもよいと認めた日数」で欠席する生徒が増加したため、各高校で欠席日数、遅刻回数、早退回数などの項目を校内基準から削除したのではないかと推察される。コロナ禍が過ぎ、2022年度からは、それらの項目も再び追加されている。

16 指定校推薦について

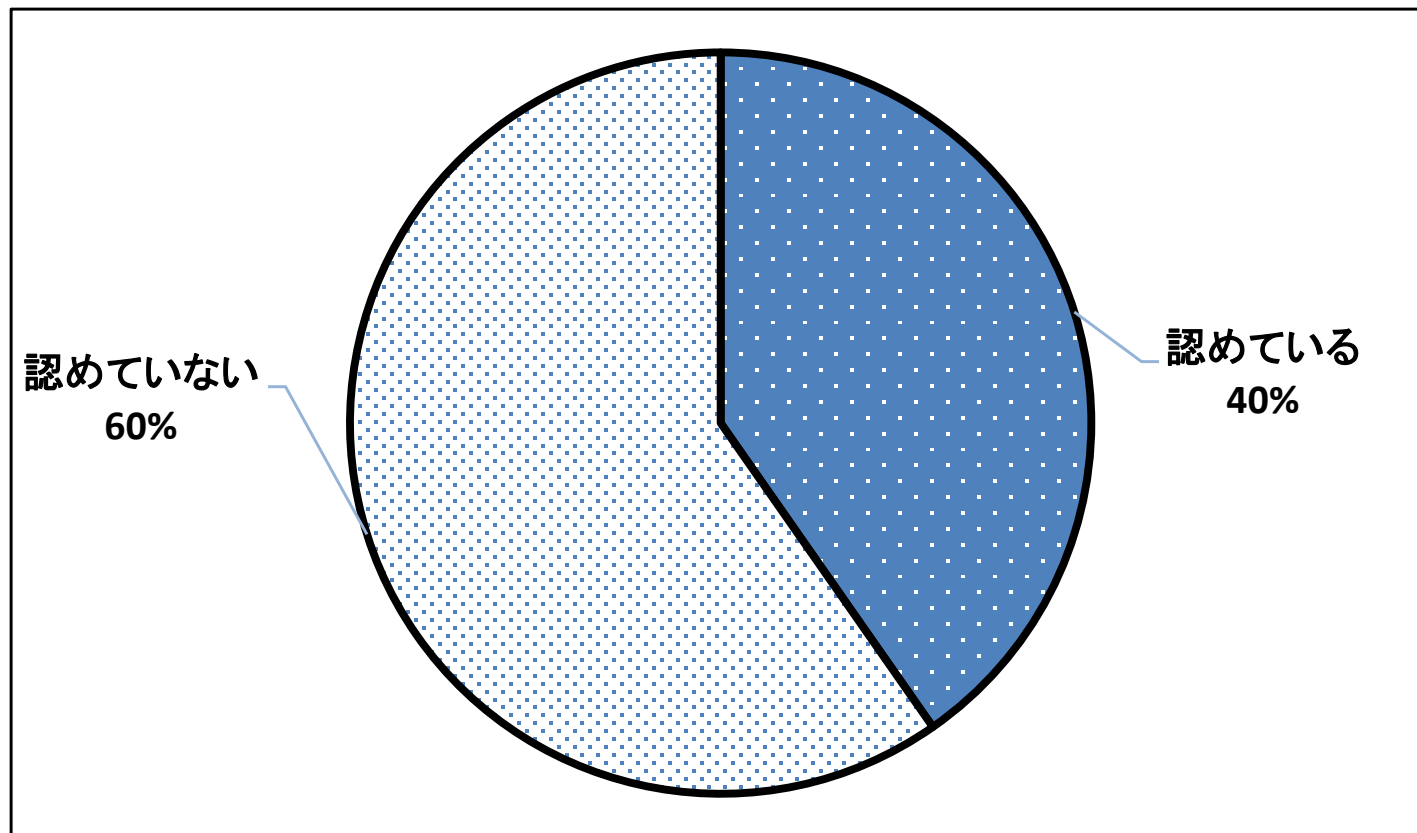
大学側からの基準以外に設けている校内基準

＜その他の具体例＞

- 校内推薦入試説明会への参加（生徒・保護者）
- オープンキャンパス等への参加
- 校内用志望理由書の提出
- 学業及び生活面において学校長が推薦するにふさわしいと認められる者
であること など

17 指定校推薦について

学校推薦型(指定校推薦や公募制推薦の専願校)と他の併願可能な大学との同時出願を認めているか



認めている高校が40%存在しているが、次の質問で分かるが、条件付きで認めている高校が殆どである。

18 指定校推薦について

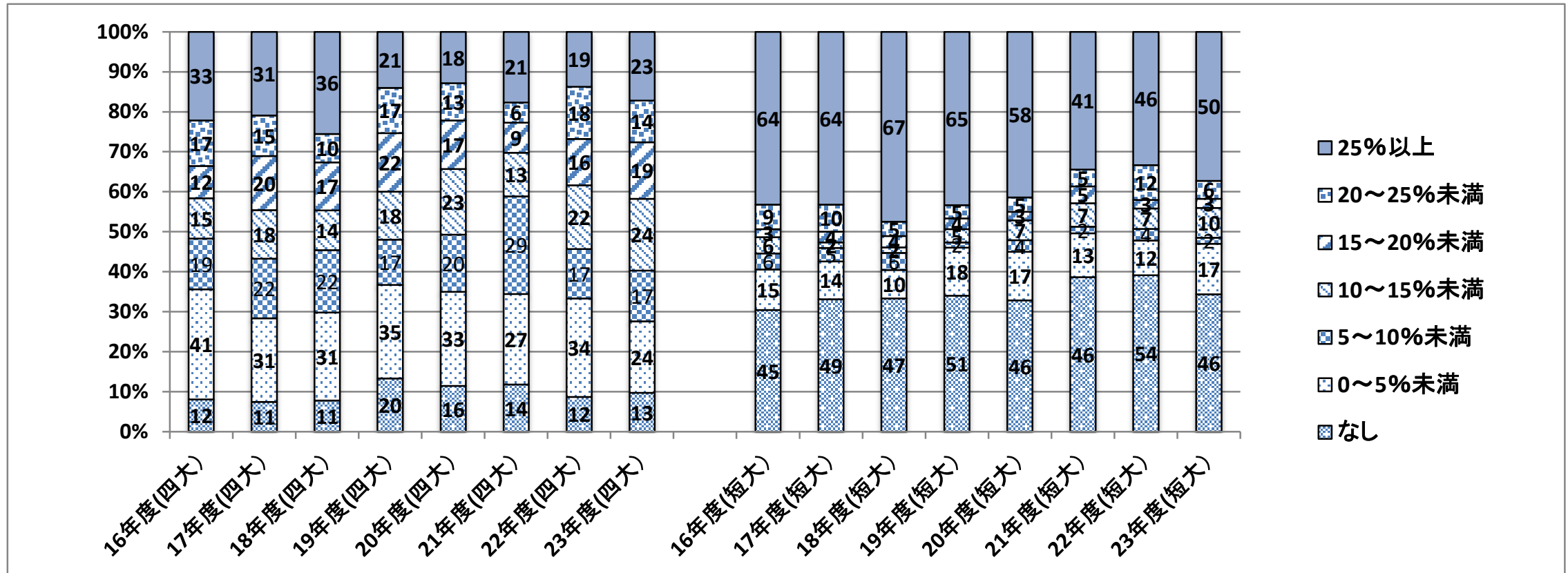
学校推薦型と他の併願可能な大学との同時出願時の校内での指導の具体例

- 同一大学・同一学部・同一学科のみ
- 指定校や専願校を第一希望として、合格の場合は併願校へは行かないことを徹底
- 指定校は原則不可、公募制のみ
- 専願・併願 もしくは 併願・併願 の組み合わせならば同時出願可
専願・専願 の組み合わせは同時出願不可
- 必ず専願校へ進学する誓約書の提出(生徒・保護者等) など

総合型選抜入試について

総合型選抜入試(AO入試)について

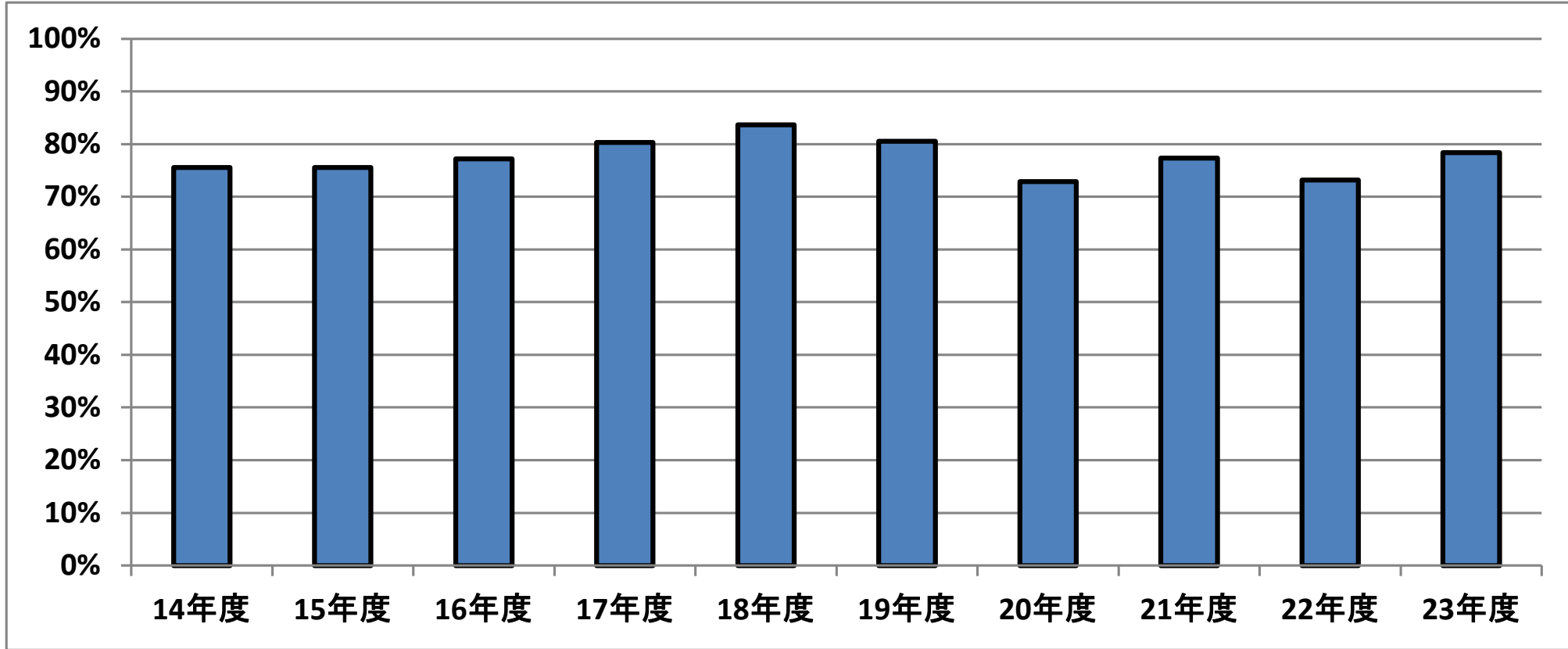
四年制大学／短期大学進学者のうち、総合型選抜を利用して入学した割合



四年制大学進学では、2021年度から、総合型選抜を利用した生徒が、0%~5%未満の高校が徐々に減っている。それに伴い、10%以上の高校が増えてきている。
短期大学進学では、25%以上の高校が増加傾向となっている。総合型選抜を利用する生徒が減少から増加傾向となっている。

21 総合型選抜入試(AO入試)について

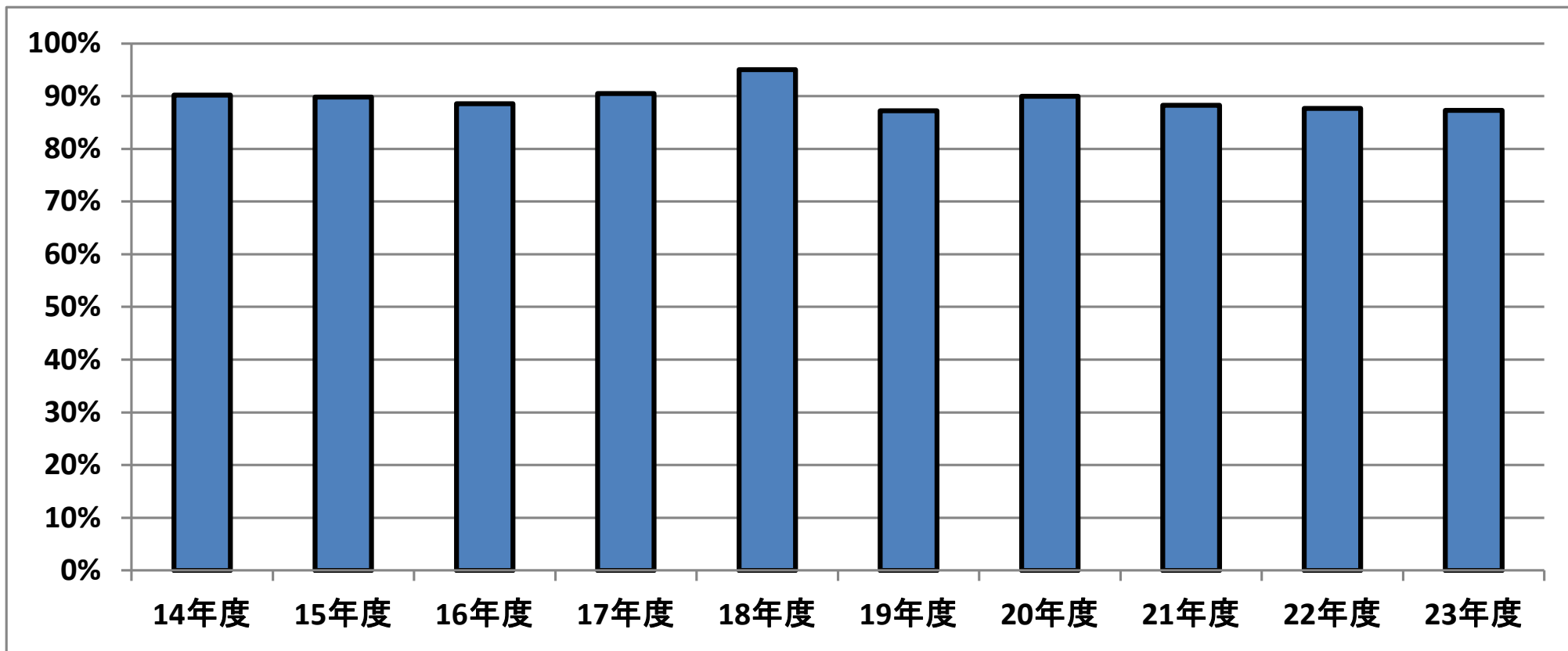
総合型選抜入試に関する指導について、生徒に「出願の届け出」をさせて、組織的に把握している学校の割合



80%近くの高校が「出願の届け出」をさせて組織的に把握している。
高い水準が維持されている。

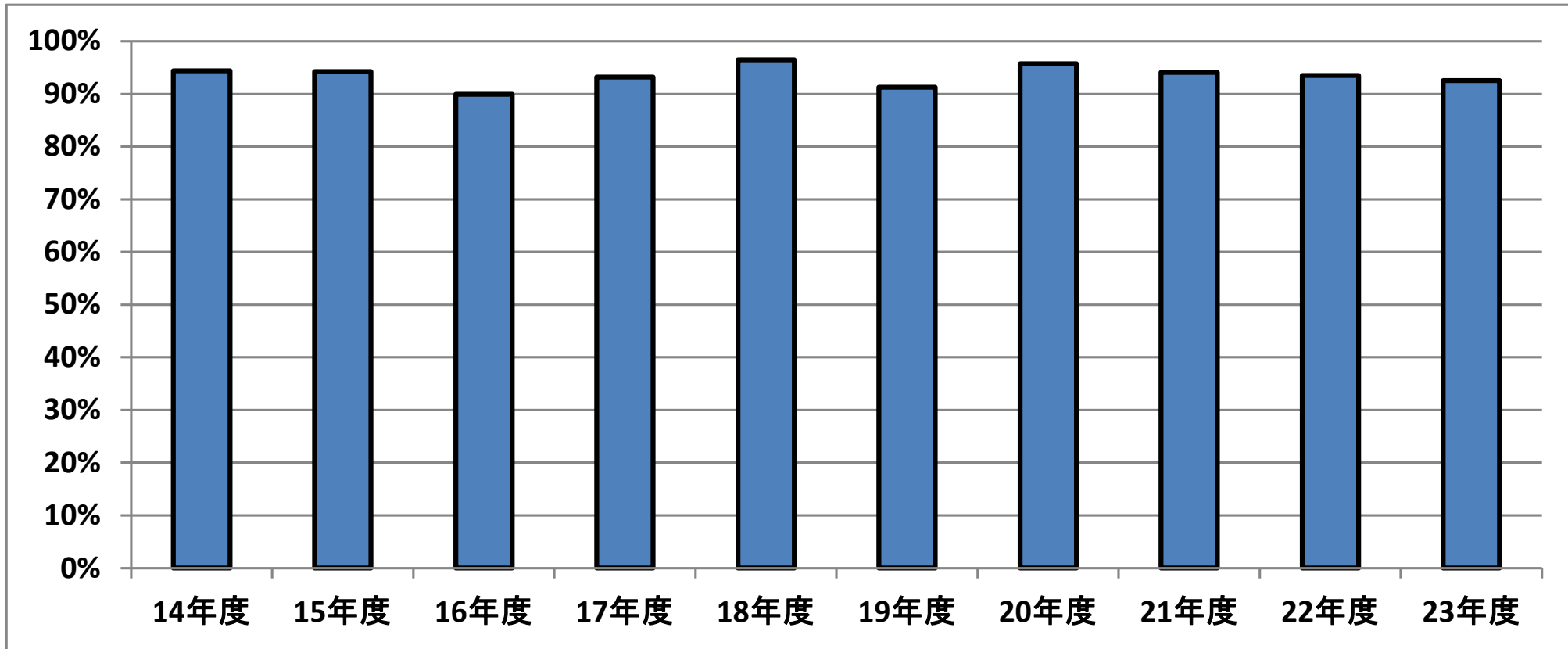
総合型選抜入試(AO入試)について

総合型選抜入試に関する指導について、「作文・小論文指導」をしている学校の割合



90%前後で推移しており、総合型選抜入試でも、手厚く指導されている高校が多いことが分かる。

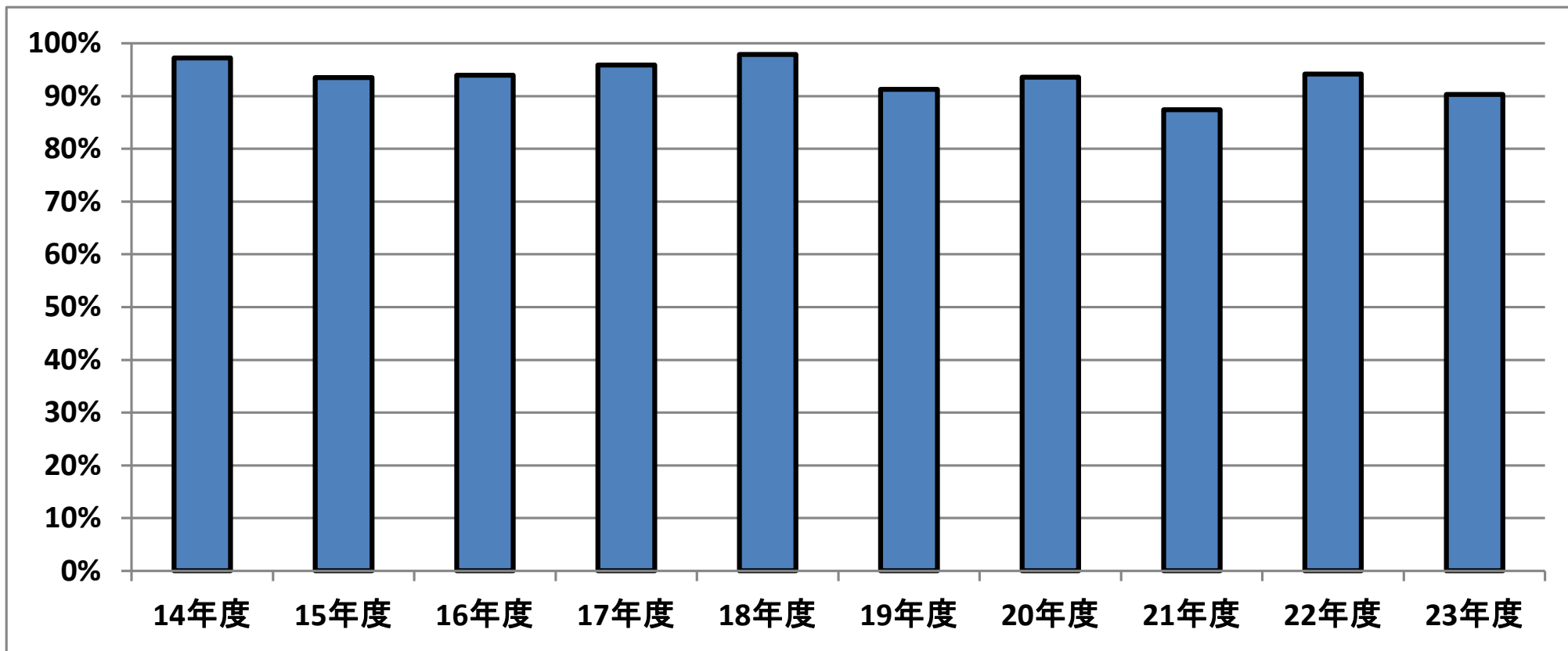
総合型選抜入試に関する指導について、「面接指導」をしている学校の割合



90%以上で推移しており、総合型選抜入試でも、手厚く指導されている高校が多いことが分かる。

総合型選抜入試(AO入試)について

総合型選抜入試に関する指導について、生徒に「受験報告書の提出」をさせている学校の割合



2021年度は、統計を取り始めて以来初めて、90%を下回ったが、コロナ禍が収束傾向に向かうに伴い、2022年度からは、再度90%を超えている。

25 総合型選抜入試(AO入試)について

出願時の校内での指導の具体例

- 1校のみ出願とし、合否結果が出るまで他の学校へ出願できない
- 「併願可」同士でないと、2つの出願は同時には認めていない
- 出願時期(出願から発表まで)が単願の場合は重複してはいけない
- 学校推薦型選抜(指定校制)や学校推薦型選抜(公募制・専願)との同時出願は原則不可
- 卒業見込みの要件を満たしていること
- 出願開始の2週間前までの提出
- 届けの提出
- 進学ガイダンスの実施
- 調査書以外に公印が必要な書類の提出を求められる場合は、届け出る

など

大学入学共通テストについて

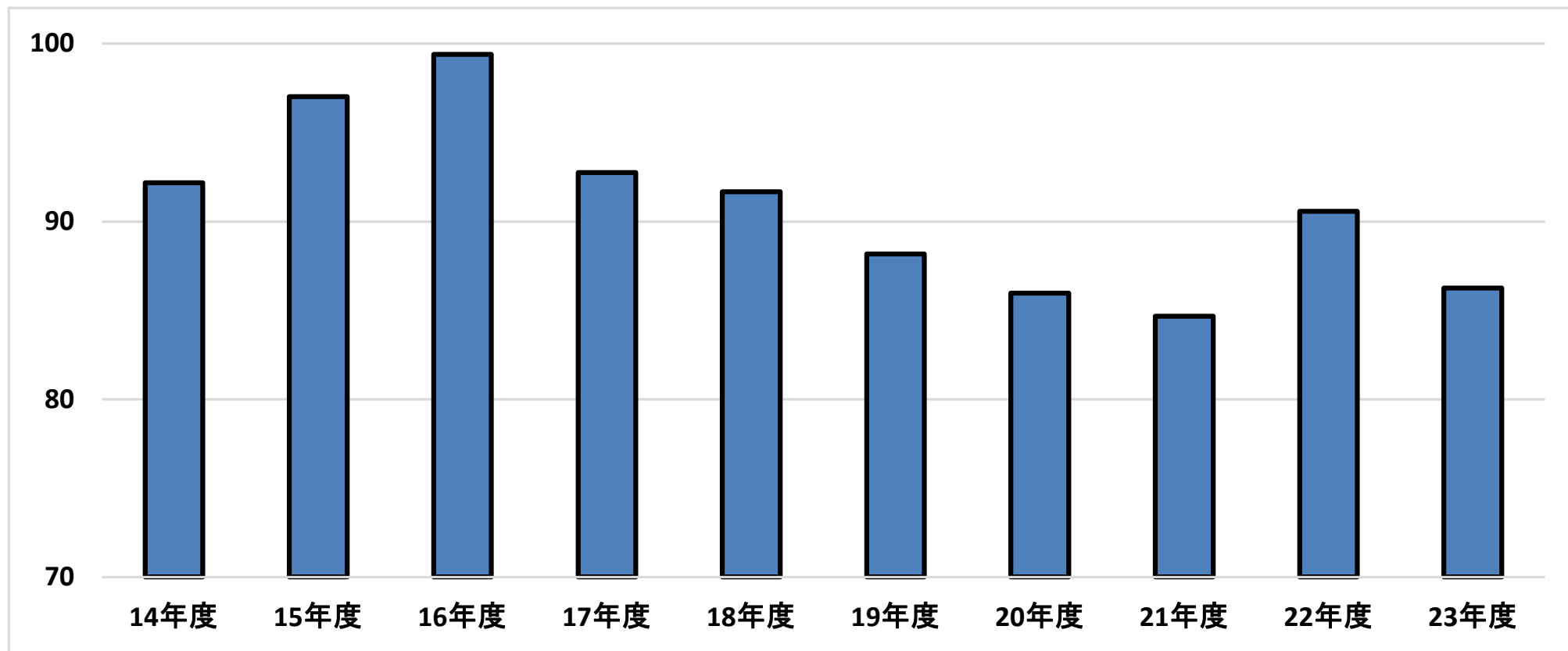
27 大学入学共通テスト(センター試験)について

大学入学共通テストの出願者数

年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
回答校数	143	141	150	150	141	150	140	119	138	134
出願人数	13,183	13,679	14,912	13,913	12,926	13,227	12,036	10,077	12,498	11,559
1校当たり人数	92	97	99	93	92	88	86	85	91	86

本アンケートへの回答高校数の増減によって、共通テスト出願人数の増減が影響されるので、1校当たりの出願人数を算出した。

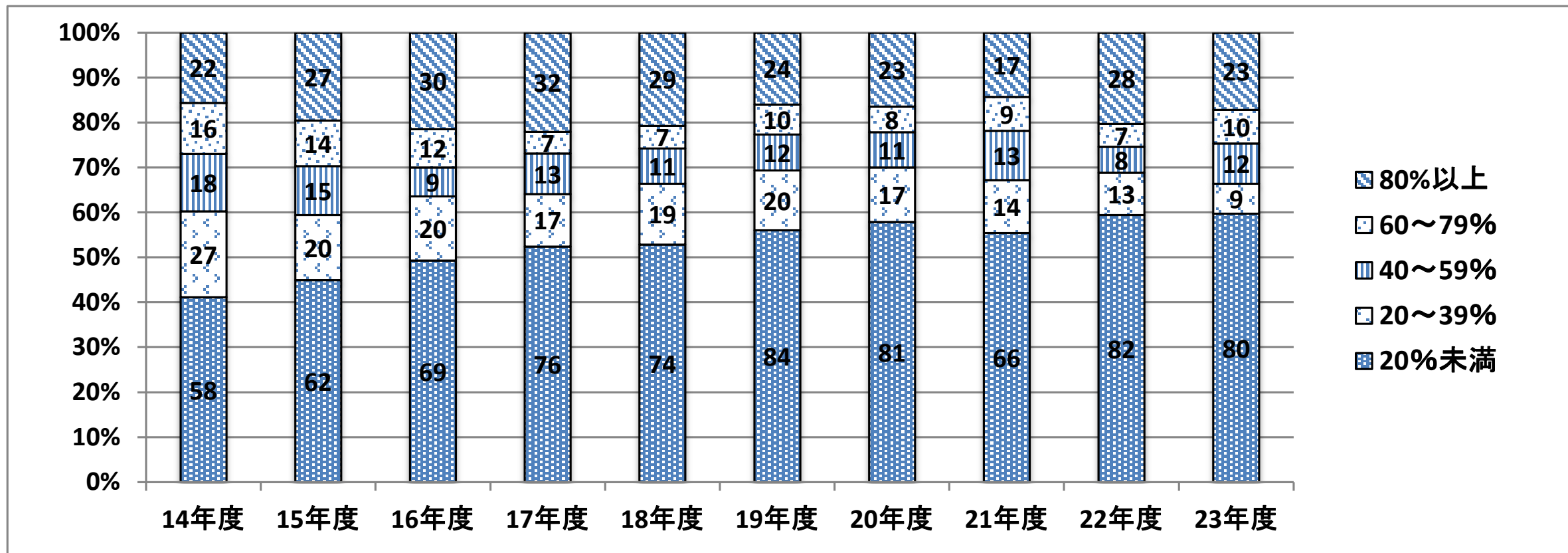
大学入学共通テストの1校あたり出願者数



私立大学入学定員の厳格化の影響か、2016年度をピークに、1校当たりの共通テストへの出願者数が年々、減少してきていた。私立大学入学定員の厳格化が緩和されたために、2022年度に、1校当たりの出願者数が増えたと思われたが、2023年度に再び減少した。引き続き調査を進めて、原因を探っていきたい。

29 大学入学共通テスト(センター試験)について

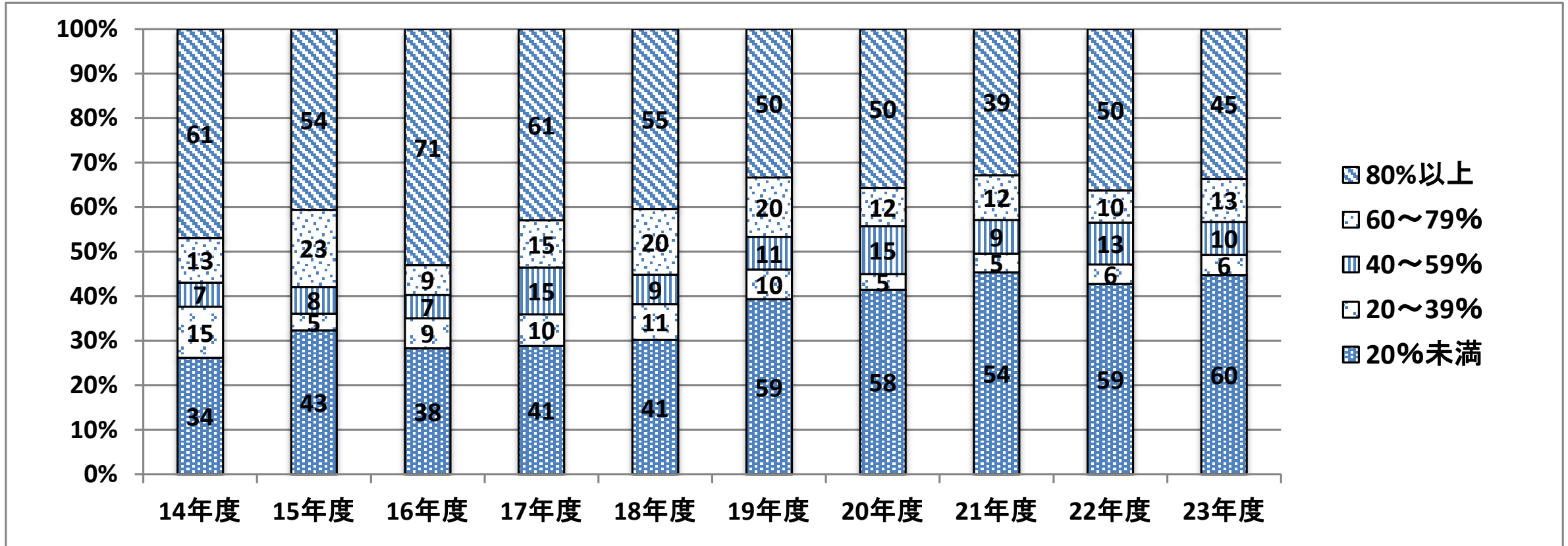
卒業予定者における大学入学共通テストの出願者の割合



2017年度から、出願者割合が20%未満の高校が増えてきている。それに伴って、2021年度までは、80%以上の高校が減少してきていた。しかし、2022年度からは、80%以上の高校がコロナ禍前の状況に戻ってきている。2022年度からは、学力が上位の高校で、明らかに増加している。

30 大学入学共通テスト(センター試験)について

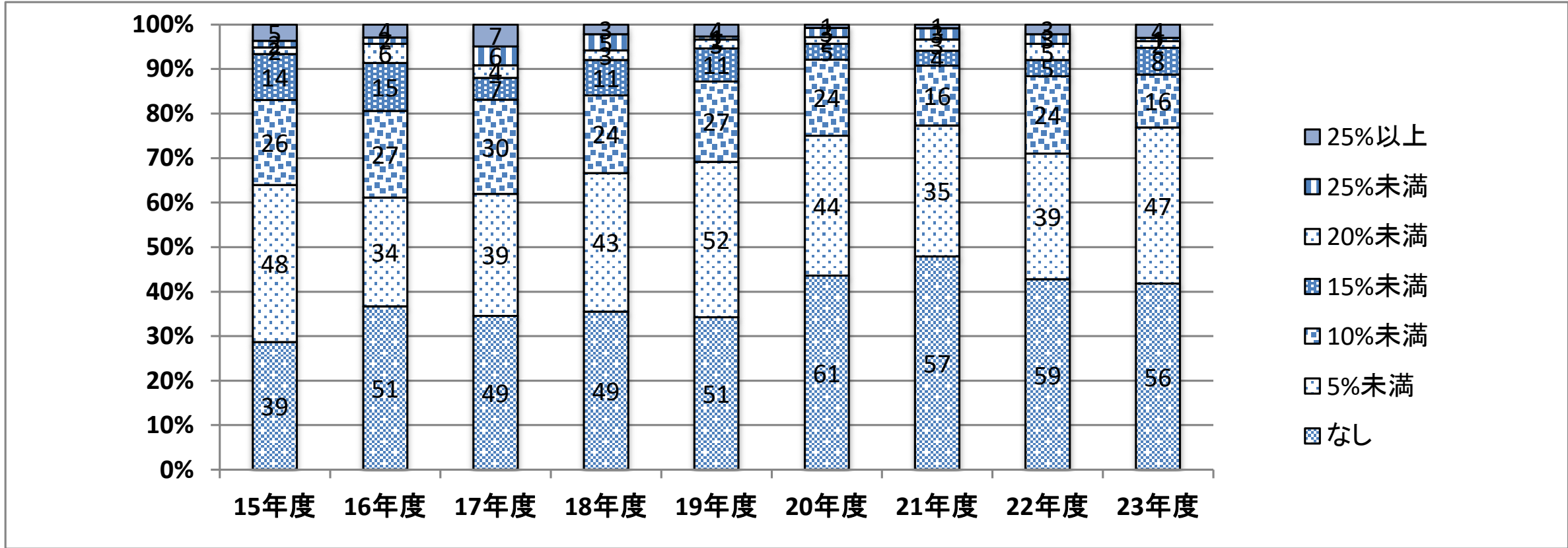
令和5年度(昨年度)までの入試において、共通テスト出願者数における共通テスト受験者の割合



2017年度から、受験者割合が20%未満の高校が増えてきている。それに伴って、80%以上の高校が減少してきている。出願したのに受験しない生徒の割合は、増加してきている。

31 大学入学共通テスト(センター試験)について

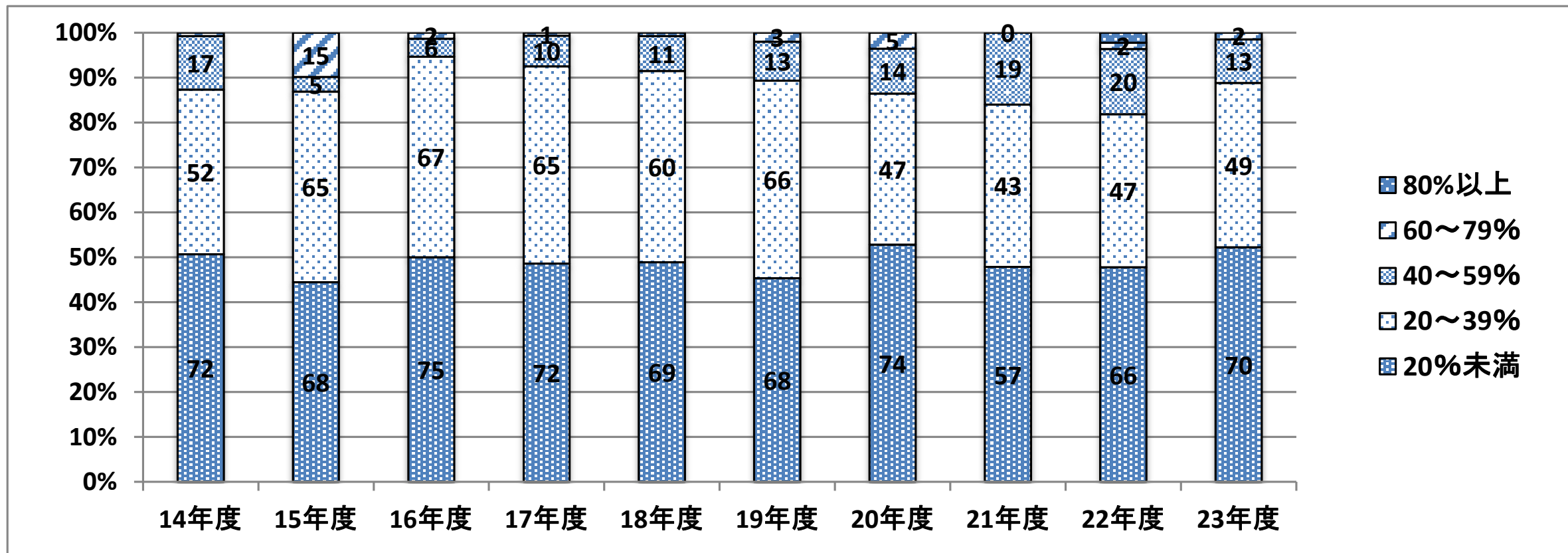
令和5年度(昨年度)までの入試において、私立大学入学者のうち、共通テスト利用入学者の割合



共通テストを利用して私立大学に入学する生徒の割合は5%未満が8割を占める。
共通テスト利用で合格をしない、または、合格をしても進学していないのではないかと懸念されている。

専門学校について

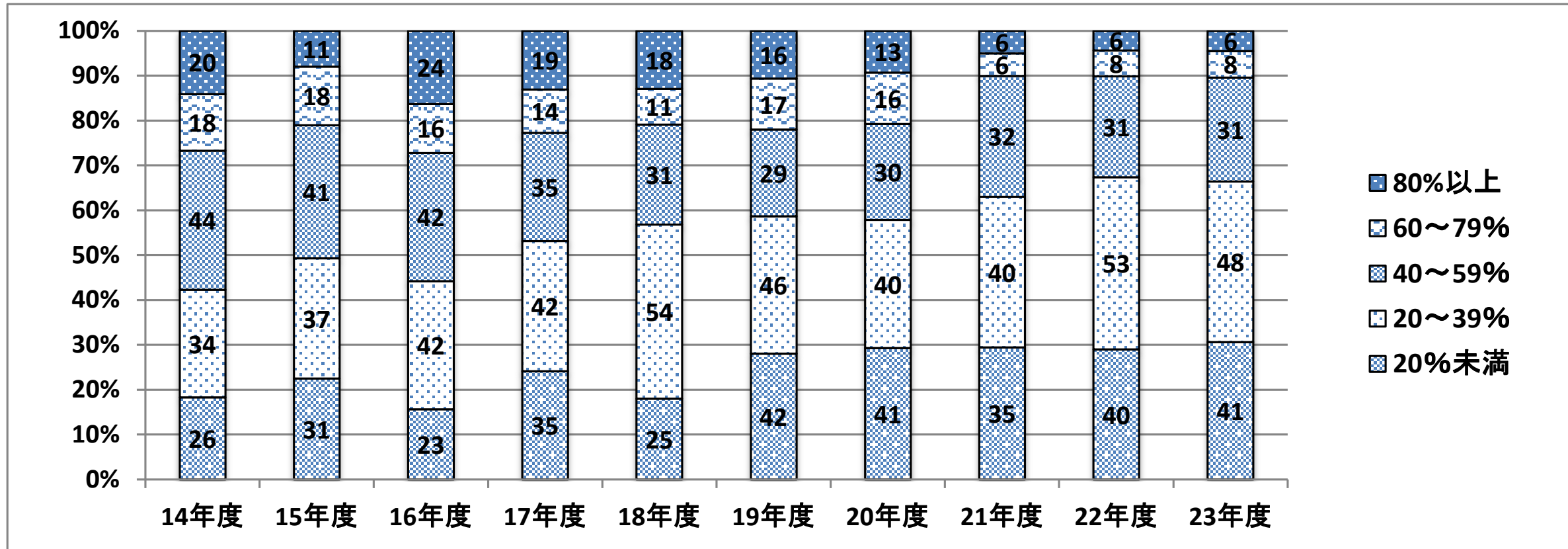
専門学校進学希望者の割合



2017年度から、20%~39%の割合の高校が減少し、それに伴い、40%~59%の割合の高校が増えてきている。2021年度から、20%未満の割合の高校が増加し、3年ぶりに半数を超えた。

34 専門学校について

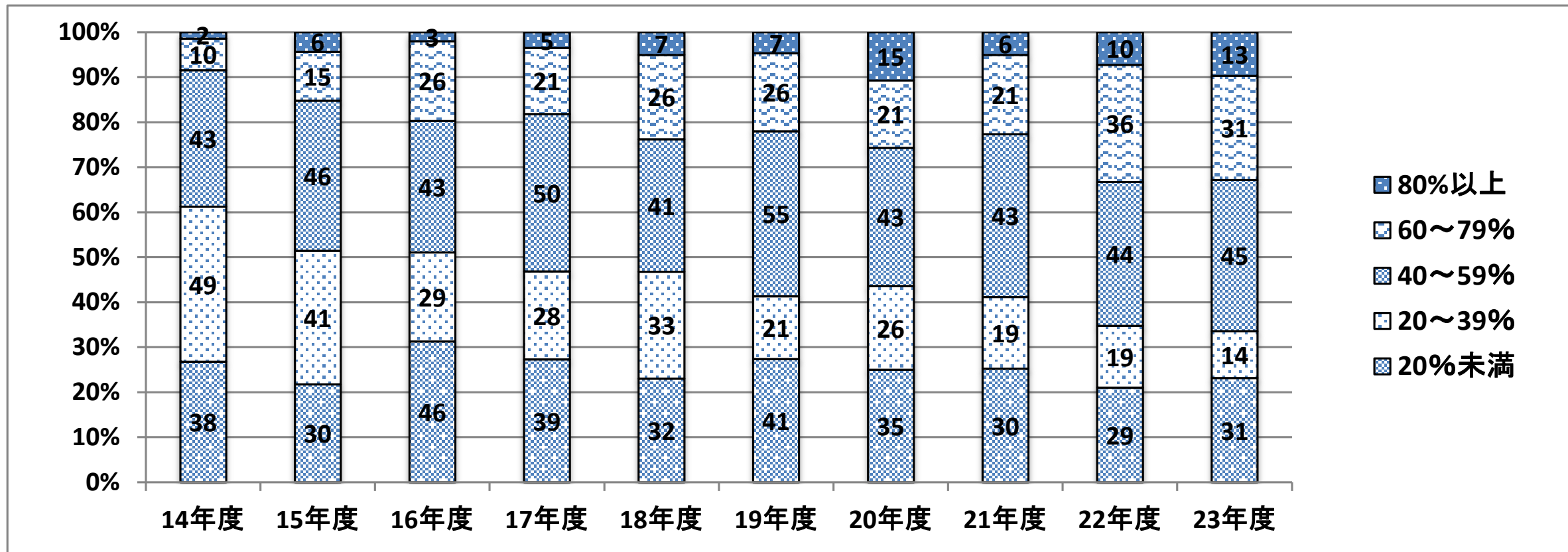
専門学校進学希望者のうち、推薦(指定校・公募制)入試制度利用者の割合



20%未満、0%~39%の割合の高校が増えてきている。それに伴い、40%以上の割合の高校が減少してきている。専門学校進学では、指定校推薦を利用しない受験が増えていることが継続している。

35 専門学校について

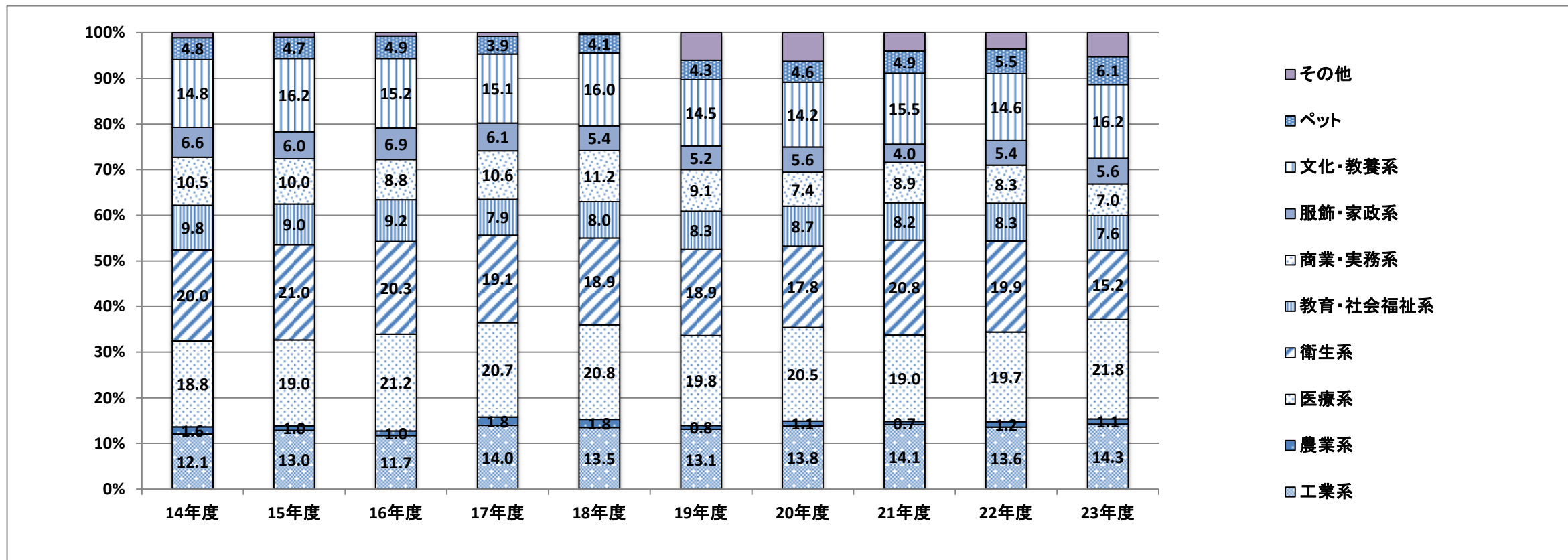
専門学校進学希望者のうち、AO入試制度利用者の割合



39%未満の割合の高校が減少してきており、それに伴って、40%以上の割合の高校が増加してきている。特に60%以上の割合の高校の増加が目立つ。

指定校推薦よりも早い時期に行われるAO入試で、進路先を決めてしまいたいという生徒の心理が現れている。

専門学校進学希望者のうち、各分野の希望者数

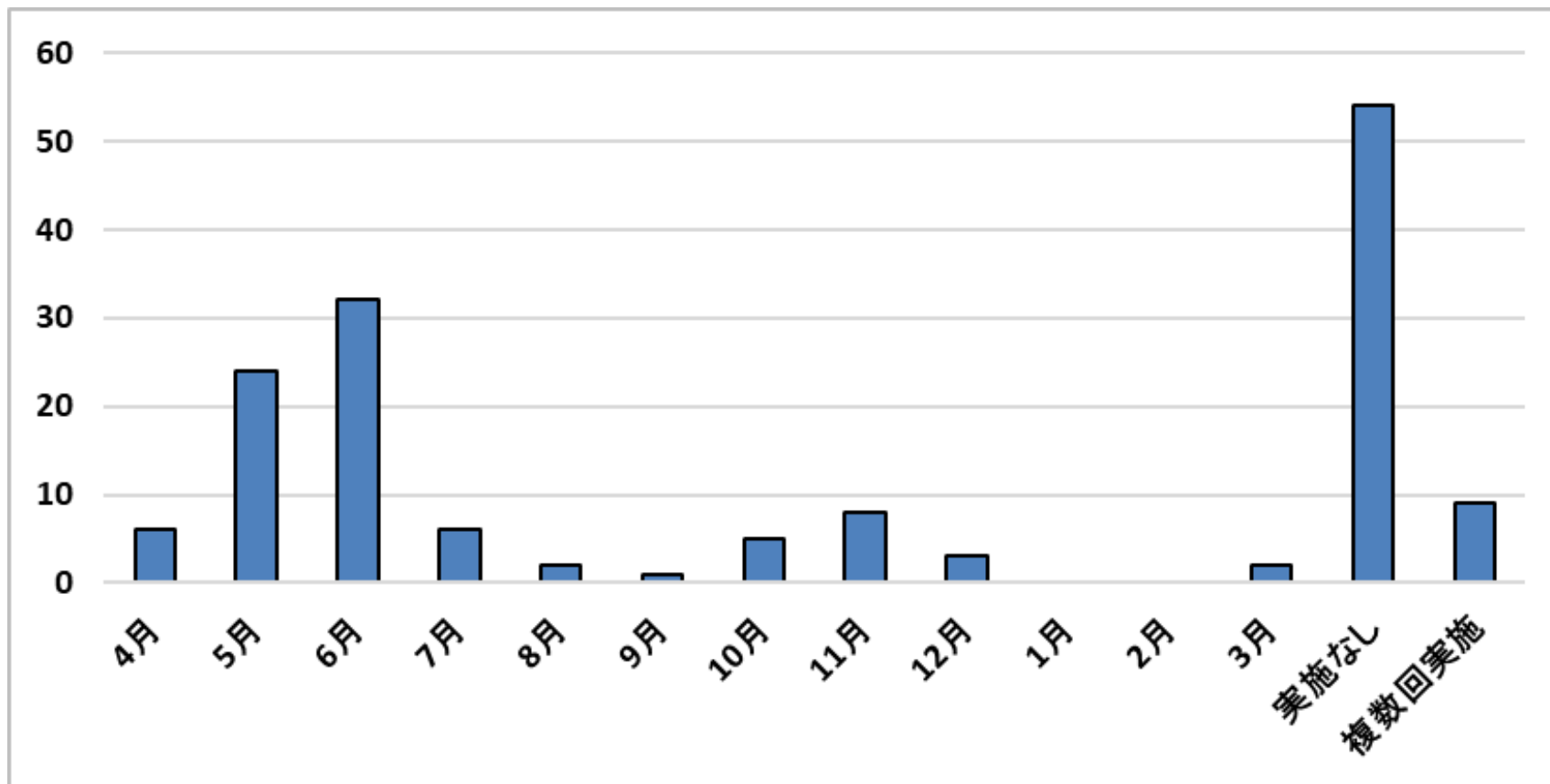


医療系、文化・教養系が増加、ペット関係が微増した。衛生系は5%減少した。商業・実務系も減少傾向である。

保護者対象進路説明会について

1年次生の保護者対象進路説明会を実施している時期

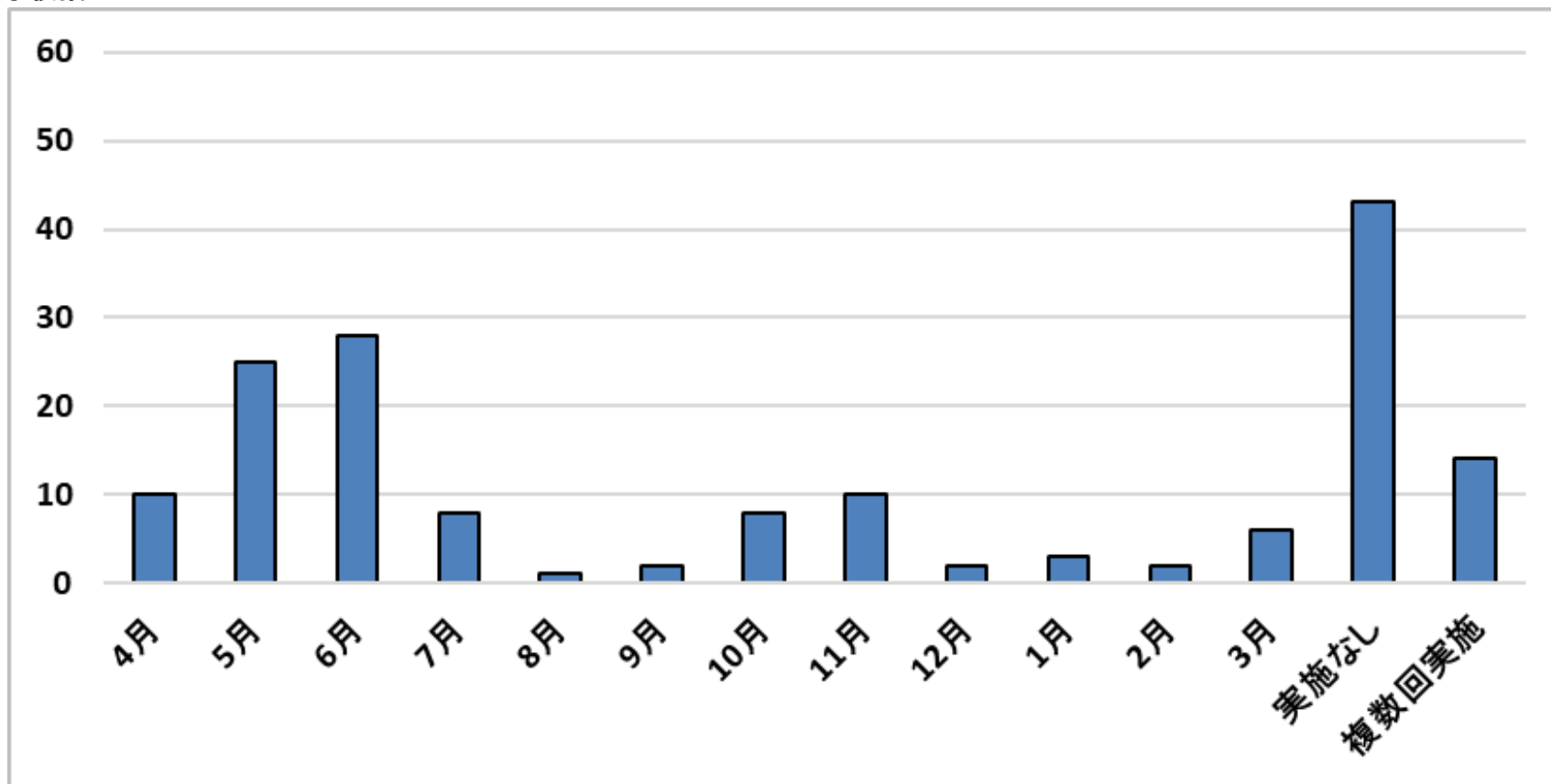
学校数



次年度の選択科目を考える5・6月で多く実施している高校が多い。
年に複数回実施する学校が9校存在する一方で、1年次で保護者対象進路説明会を実施しない高校が、54校も存在している。

2年次生の保護者対象進路説明会を実施している時期

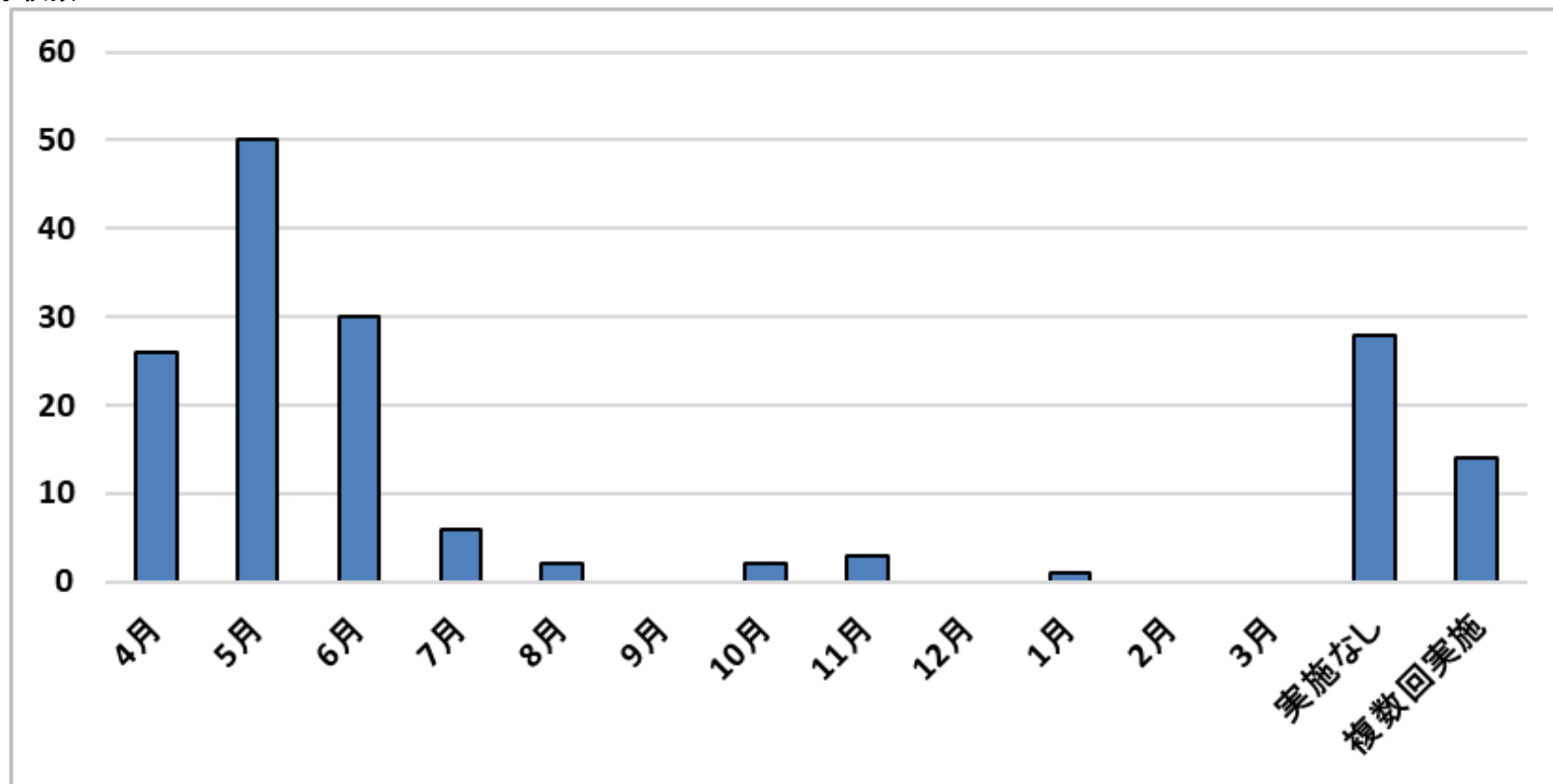
学校数



次年度の選択科目を考える5・6月で多く実施している高校が多い。
年に複数回実施する学校が14校存在する一方で、2年次で保護者対象進路説明会を実施しない高校が、43校も存在している。

3年次生の保護者対象進路説明会を実施している時期

学校数



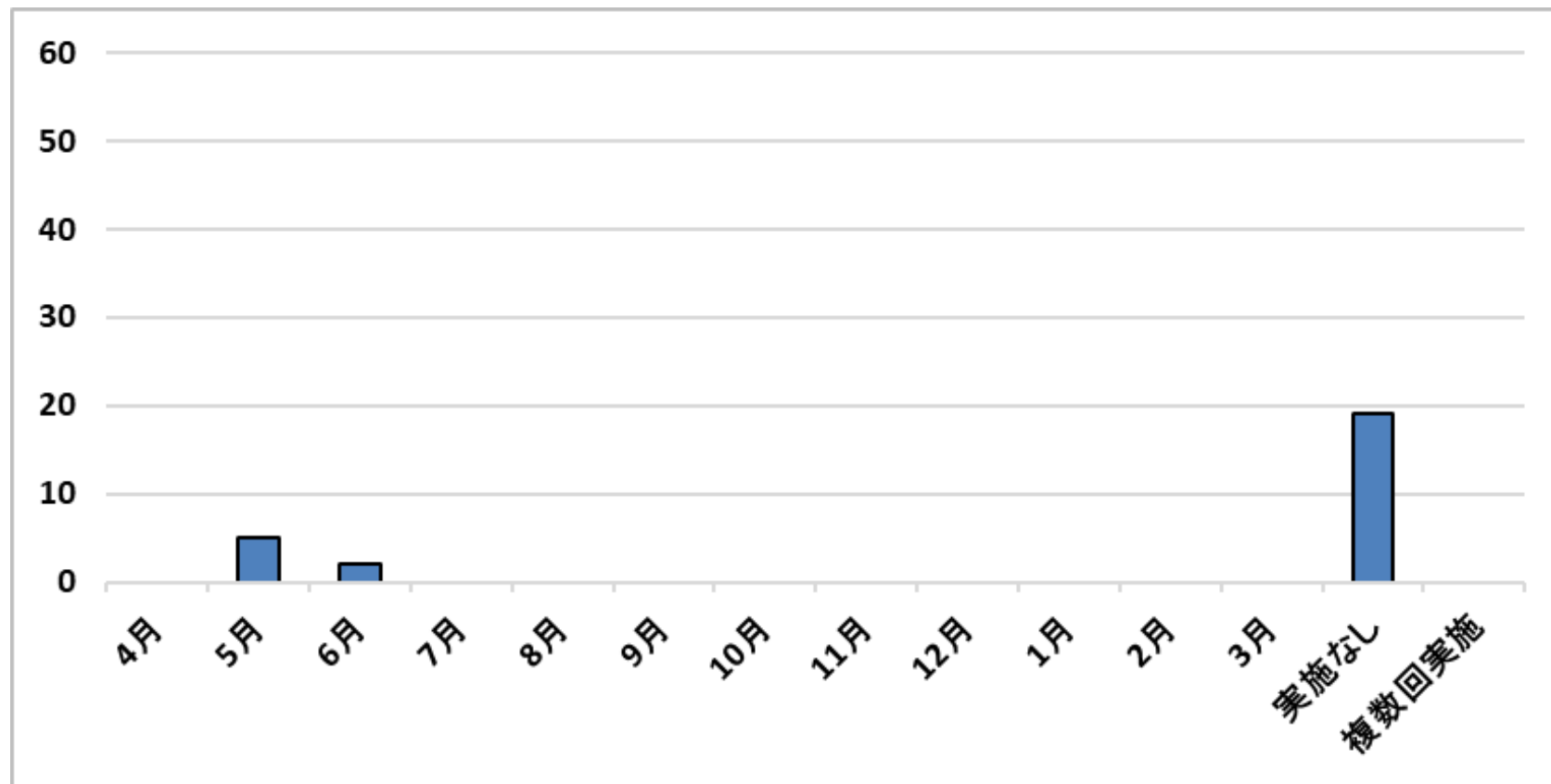
進路活動が開始される6月までに実施する高校が多い。

1・2年次では実施していない高校も、3年次では保護者対象進路説明会を実施しているといえる。

41 保護者対象進路説明会について

4年次生の保護者対象進路説明会を実施している時期

学校数



進路活動が開始される6月までに実施する高校が多い。

学校独自で実施している進路ガイダンス等の取組み

<進学関係>

- 進路相談会(上級学校の学生に来てもらう)
- 進学ガイダンス(学校別、学部別、難関国公立、専門学校)
- 大学分野別講義、模擬授業
- 大学キャンパスツアー
- 修学旅行＋進路コラボ企画
- 受験方法別ガイダンス(推薦・総合型、一般受験、共通テスト)
- 一般入試出願指導
- 共通テスト分析会
- 受験報告会

学校独自で実施している進路ガイダンス等の取組み

<就職関係>

- キャリアアップ講座(卒業生および就職先の担当者の講話)
- 分野別キャリアガイダンス
- 職業人講話
- 公務員講座
- 職業別体験型ガイダンス
- かなテクカレッジ体験
- 地域企業職場体験
- 地域企業職業インタビュー
- 校内の合同企業説明会
- 就職ガイダンス・サポート講座
- 就職対象マナー講座
- 求人票の見方や過去の実績について

学校独自で実施している進路ガイダンス等の取組み

<科目・分野・職業・進路選択>

- 年間を通してキャリア教育（自己分析など）
- 総合的な探究の時間で、1学期は進路探究
- 文理選択ガイダンス
- 社会人講話
- 看護・医療系ガイダンス

<お金に関すること>

- 奨学金説明会

学校独自で実施している進路ガイダンス等の取組み

<職員対象>

- 大手予備校による進路説明会
- 専門学校の状態について、業者より担任向け研修

<保護者対象>

- 進路情報会
- 学費についてのマネープランガイダンス
- 進路先となり得る企業や福祉事業所への保護者見学会

学校独自で実施している進路ガイダンス等の取組み

<卒業生を招いてのガイダンス>

- 教育実習生による進路ガイダンス
- 卒業生(3月卒業の3年次生による)進路ガイダンス
- 卒業生から直接話を聞く「卒業生に学ぶ会」

<外部講師を招いてのガイダンス>

- ハローワークを招いての進路ガイダンス
- 進学・就職アドバイザーによる指導

学校独自で実施している進路ガイダンス等の取組み

<その他>

- 学校長から3年生に対し、卒業までの過ごし方やその後の生き方の指南をいただく「学校長訓話」
- 総合型・学校推薦型選抜受験者及び就職希望者一人ひとりに担当教員を配置
- 論文添削
- マネー講座(進学・進学準備等に向けた費用等について)

日頃感じている問題点

進学指導をするにあたって、日ごろ感じている問題点がありましたらお書きください。

＜生徒の生活習慣・基礎学力・学業への態度・進路意識＞

- 基礎学力の低い生徒が多い。
- 推薦や総合型選抜を考える生徒が多く、普段の成績ばかり気にしていて、一般受験に向けた学力の育成ができていない。
- 勉強に苦手意識があり、一般受験でチャレンジする生徒が少ない。
- 指定校希望者の増加。
- 推薦入試や総合型入試への志向が強すぎる気がします。

- 登校回数が少ない生徒への対応・指導。
- 進路指導がプレッシャーとなって欠席が増える生徒がいる。

- 合格が決まった後の生徒指導に苦慮している。
- 進路決定後の授業・学習への取り組み状況について

進学指導をするにあたって、日ごろ感じている問題点がありましたらお書きください。

＜生徒の生活習慣・基礎学力・学業への態度・進路意識＞

- 生徒が計画性があまりないこと。進路活動に対する準備が不足していること。
- 自ら情報を得ることができない生徒が増えているように思う。
- 生徒の進路活動が遅い。(学校見学等になかなか行かない)
- 部活動がさかんな事もあり、自分から模擬試験等を受けようとしなない
- 具体的に進路を意識する時期が遅い、学校選択の仕方(特に専門学校)
- 卒業後の明確なビジョンがないため、イメージができていない。
- 進学先とのミスマッチ(生徒の能力不足)

- 提出書類の申告が遅い
- 上級学校と個人でのやり取り(LINE等)
- 書類の作成・提出がきちんとできない

進学指導をするにあたって、日ごろ感じている問題点がありましたらお書きください。

<生徒の安易な進路選択>

- 日常的に勉強量が少なく、合格しやすい学校へ流れる生徒が多い。
- 進学したい学校を選ぶというより進学できる学校を選ぶ傾向がある。
- 偏差値を見て、いけそうな大学に行っている生徒が増えてきているように感じる。
- ポジティブな一般受験が少なく、逃げの年内受験が多い。かつ逃げの年内受験の為、進学実績が伸びない。

<専門学校>

- 専門学校による早期囲い込みのような募集
- 安易に専門学校を選択している生徒が多い

進学指導をするにあたって、日ごろ感じている問題点がありましたらお書きください。

<大学・短大・専門学校の選抜方法の名称の違い／不統一な書式>

- 指定校推薦の各大学の要項の表記の不統一性。
- 上級学校の要項で、専願とも併願可とも受け取ることができる内容の学校があり、判断に困る。
- 調査書・推薦書等の事務処理の統一性のなさ。

<情報過多>

- 情報過多であり、職員、生徒が有用で正しい情報を選び取ることが必要である。
- 情報量が多く、選択の意思が追いつかない生徒が多い。
- 学費、入試制度など必要な情報の過多により、生徒・保護者・教員いずれも十分に検討しきれいていない部分がある。

進学指導をするにあたって、日ごろ感じている問題点がありましたらお書きください。

<情報収集／情報提供>

- 入試が複雑化しすぎていて、把握しきれない。
- 大学入試が多様化になっていることから、担任の進路指導力の差が生徒の将来に影響している。
- 進学希望者に対する指導が多様化し、対策に精通している教員がいない。
- 大学等や業者から届く情報を、どこまで、どのように、生徒に提供するか。
- 入試も多岐に渡り行われるため、出願方法等、高校側でアドバイスをすることが複雑になったことにより、困難な状況になってきている。

進学指導をするにあたって、日ごろ感じている問題点がありましたらお書きください。

<業務過多>

- 出願に関する事務的なサポートがとても担任の負担になっている。
- 秋から冬の業務量が多い。
- 面接指導と文書指導の負担が増大している。
- 推薦や総合型の受験者の小論文指導の人数が多いため、国語科教員の大きな負担となっている。
- 生徒の志望校種・受験方法が多岐にわたるため、情報収集の面でも、個別指導の時間・労力の面でも、教員の手が回らない。
- 公務の多忙化。

進学指導をするにあたって、日ごろ感じている問題点がありましたらお書きください。

<保護者に関して>

- 保護者と学校との進路に対する見立てにギャップがあること
- 生徒と保護者との情報共有(特に金銭面について)

<経済的な問題>

- 経済的に困窮している家庭が多い
- 進学の問題
- 経済状況の把握が困難な場合がある

進学指導をするにあたって、日ごろ感じている問題点がありましたらお書きください。

<校内の進路指導体制・内規>

- 一般受験者を増やしていきたい。
- 総合型選抜、学校推薦型選抜全般の指導の在り方
- 一般受験に対応できる学力を身に付けさせる点。
- 生徒のコミュニケーション能力及び文章力の育成
- 進学希望者に対する勉強の習慣づけ
- 目標やビジョンがない生徒への対応
- 1,2年生の時から高い意識を持って自身の進路について考えさせること
- 自分の将来のビジョンを持っている生徒が少ない。そこをどう持たせるかが課題。

進学指導をするにあたって、日ごろ感じている問題点がありましたらお書きください。

<その他>

- 指定校で大学に合格するが、続けられるかが心配である。
- 塾の影響が強い。練習と言って、実際に行かない大学を複数受験する。
- 塾に頼りきっていて、高校の指導にのらず、無理矢理自分の都合に合わせた受験をしようとする。
- 外国につながる生徒の言語・文化の違い、進路意識の向上について
- 外国につながる生徒に対しての進路指導が組織的に行うことができていない点。
- 勤労感・職業観の育成に焦点が当てられていて、社会的自立のために必要な能力の育成が軽視されている。
- キャリア教育の効果検証がされていない。

本調査で取り上げて
欲しいテーマ

本調査で取り上げて欲しいテーマ

本アンケートで取り上げて欲しい課題等がありましたらお書きください。

<外部業者について>

- Classiや“スタディサプリ”等、外部業者サービスの「ちょうどよい」使い方。

<指導体制について>

- 小論文指導の校内体制について

<総合型選抜について>

- 大学の総合型選抜における各校の実態調査。

<新課程について>

- 新課程入試対応

アンケートへのご協力をありがとうございました。